

日本子ども社会学会 第22回大会

1. 期日 2015年6月27日(土)・28日(日)
2. 会場 愛知教育大学
3. 日程

前日
6/26(金)

15:00	16:50 17:00	19:00
会計監査 現・将来構想委員会	移動	現・理事会

第1日
6/27(土)

9:00	9:30	12:00	12:50	13:40	15:20	15:30	17:30	17:50	19:50
受付	研究発表Ⅰ	総会	昼食 新・理事会	研究発表Ⅱ	移動	テーマセッション	移動	懇親会 愛知教育大学 第二福利施設	

第2日
6/28(日)

9:00	9:30	12:00	13:20	15:20	15:30	17:30
受付	研究発表Ⅲ	昼食 評議会 新・各種委員会	公開シンポジウム	移動	ラウンドテーブル	

4. 大会参加費 一般会員：4000円 大学院生(会員)：3000円
臨時(当日)会員：4000円

5. 懇親会 6月27日(土) 愛知教育大学 生協・第二福利施設
会費 一般会員：4000円 大学院生(会員)：3000円
※研究発表Ⅰ～Ⅲで発表を行った大学院生(共同発表の場合は登壇者のみ)は懇親会費免除

6. 宿泊について

ホテルは、名鉄知立駅周辺が一番便利です（名鉄名古屋駅－知立駅は特急で 25 分）。金山駅（名鉄金山駅－知立駅は特急で 16 分，急行で 21 分）には多くのホテルがありますが，大学までのアクセスに少し時間がかかります。

7. 大会実行委員会連絡先

〒448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢 1

愛知教育大学 教育学部教育科学系学校教育講座 気付

日本子ども社会学会 第 22 回大会実行委員会

E-mail katayama@aecc.aichi-edu.ac.jp （片山 悠樹）

8. 発表時間

個人発表：発表 20 分・質疑応答 5 分

共同発表：発表 40 分・質疑応答 10 分

9. 発表取り消し

発表の取り消し，および発表日時の変更は原則として認めていません。発表の取り消しの場合は，早急にお知らせください。学会ニュースに掲載いたします。

10. 当日発表資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合は，50 部以上ご用意ください。不足の場合，大会本部でのコピーはできません。学内及び近隣にコピーのできることはありません。

11. クローク

6 月 27 日（土）・28 日（日）に，第一共通棟 2 階 204 教室に用意します。

貴重品等はお預かりできませんので，必ず各自でお持ちください。

12. 会員控室

6 月 27 日（土）・28 日（日）に，第一共通棟 2 階 205 教室に会員控室を設けます。

13. 昼食

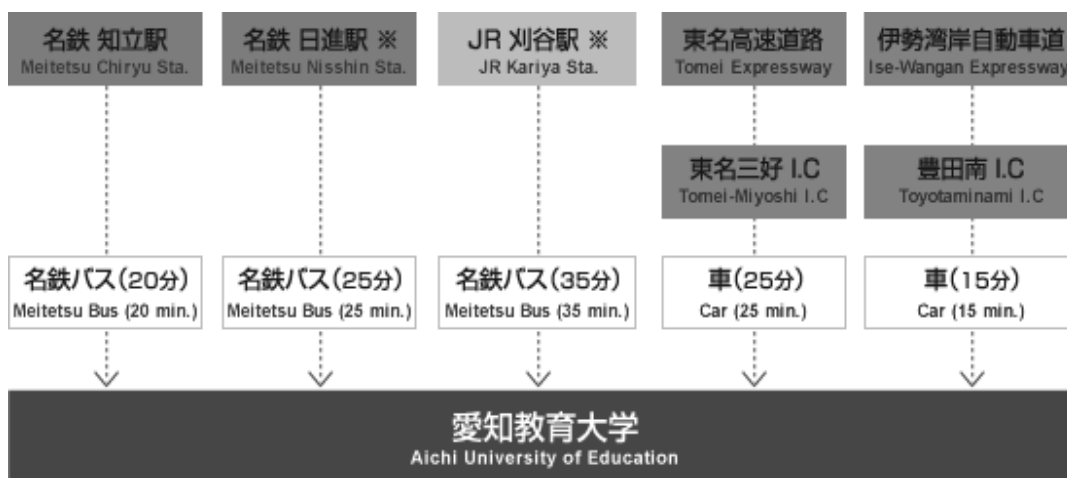
6 月 27 日（土）

13 時半まで学内の食堂（第一福利施設）が営業しております。なお，学生等大学関係者も利用させていただいておりますことをあらかじめご了承ください。

6 月 28 日（日）

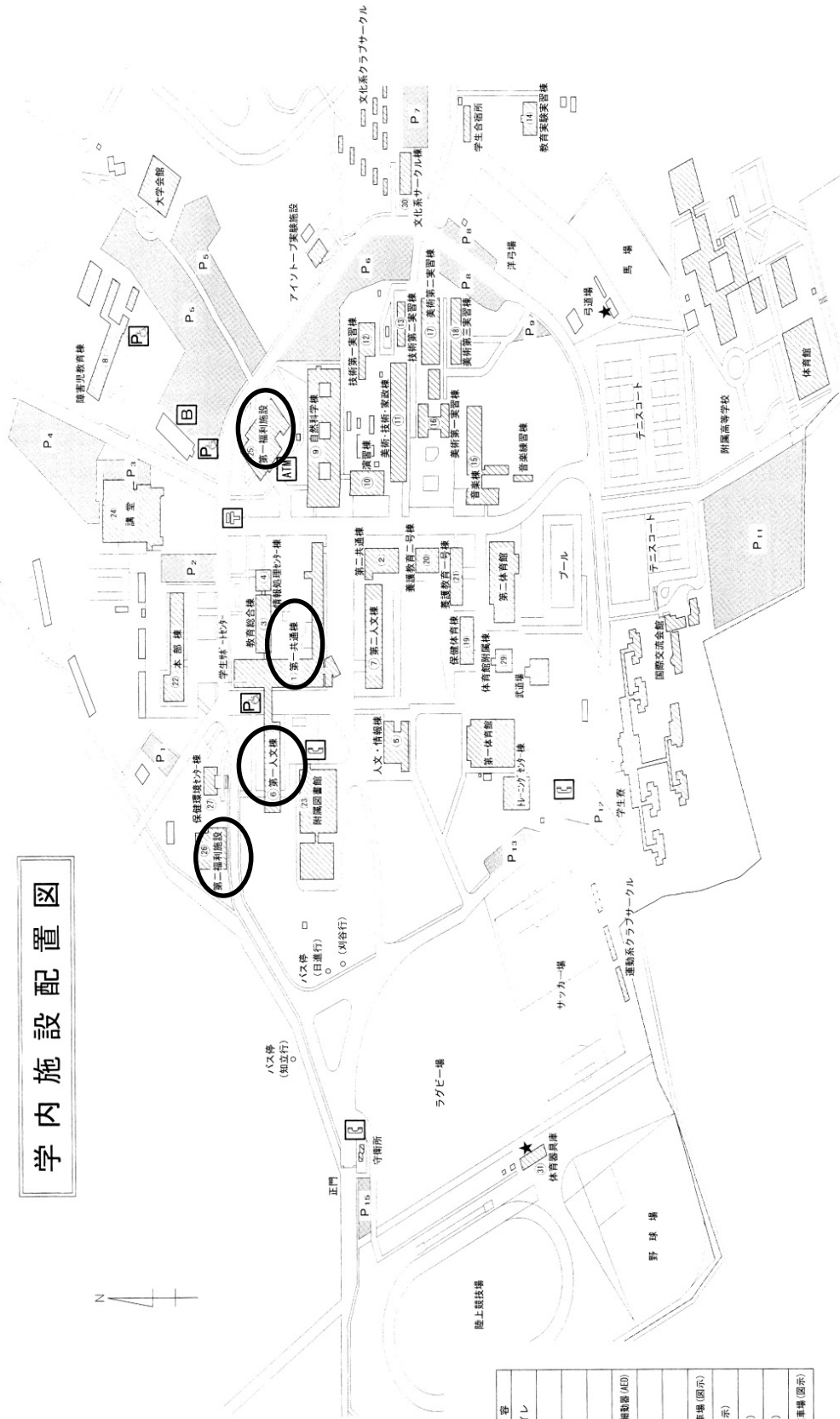
ご不便をおかけいたしますが，学内の食堂は営業しておりません。また，大学周辺にはお食事をする店は少なく，最も近いお店まで徒歩 10 以上を要します。ご面倒をおかけしますが，各自ご昼食を持参ください。

愛知教育大学へのアクセス



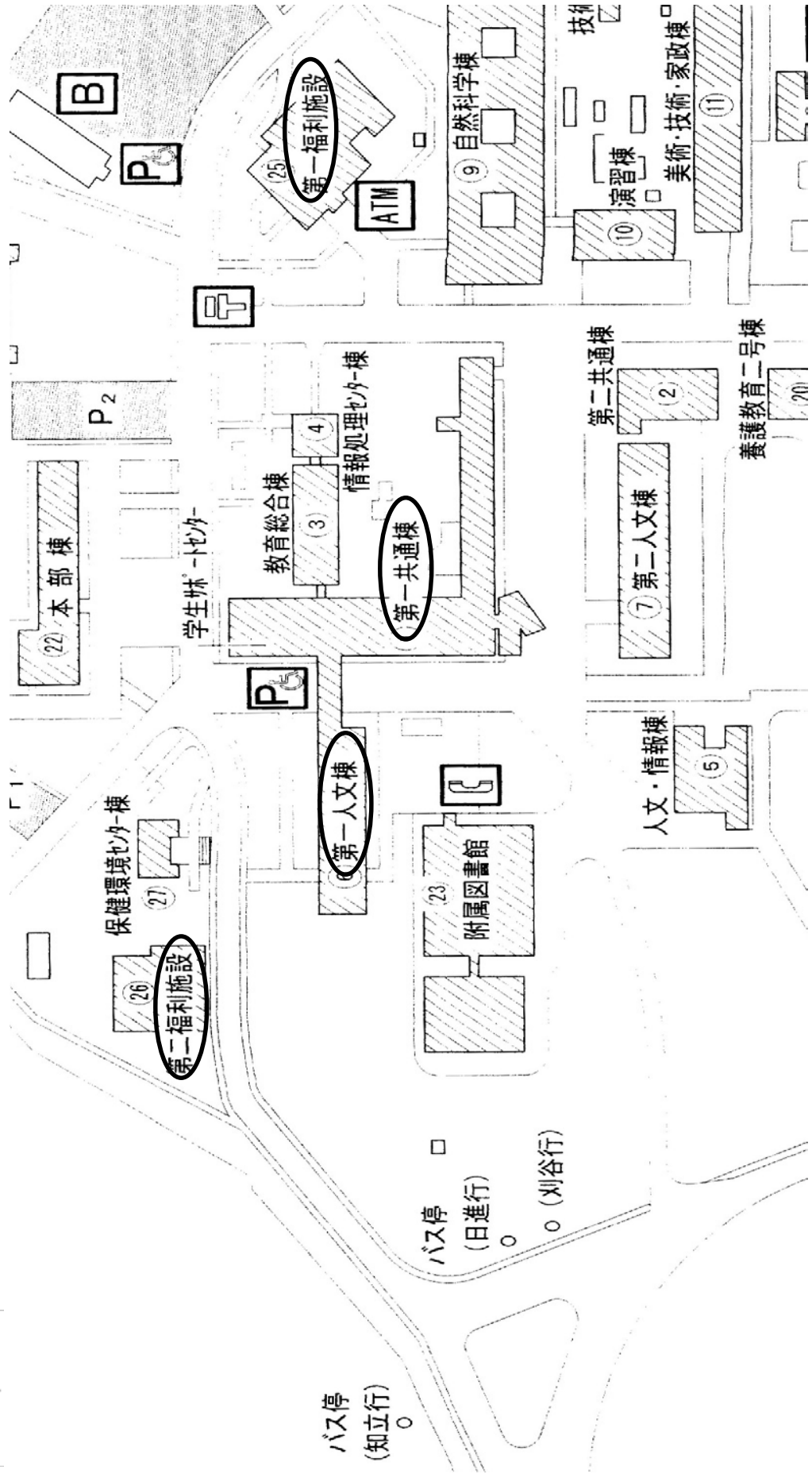
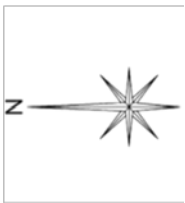
愛知教育大学 構内案内図

学内施設配置図



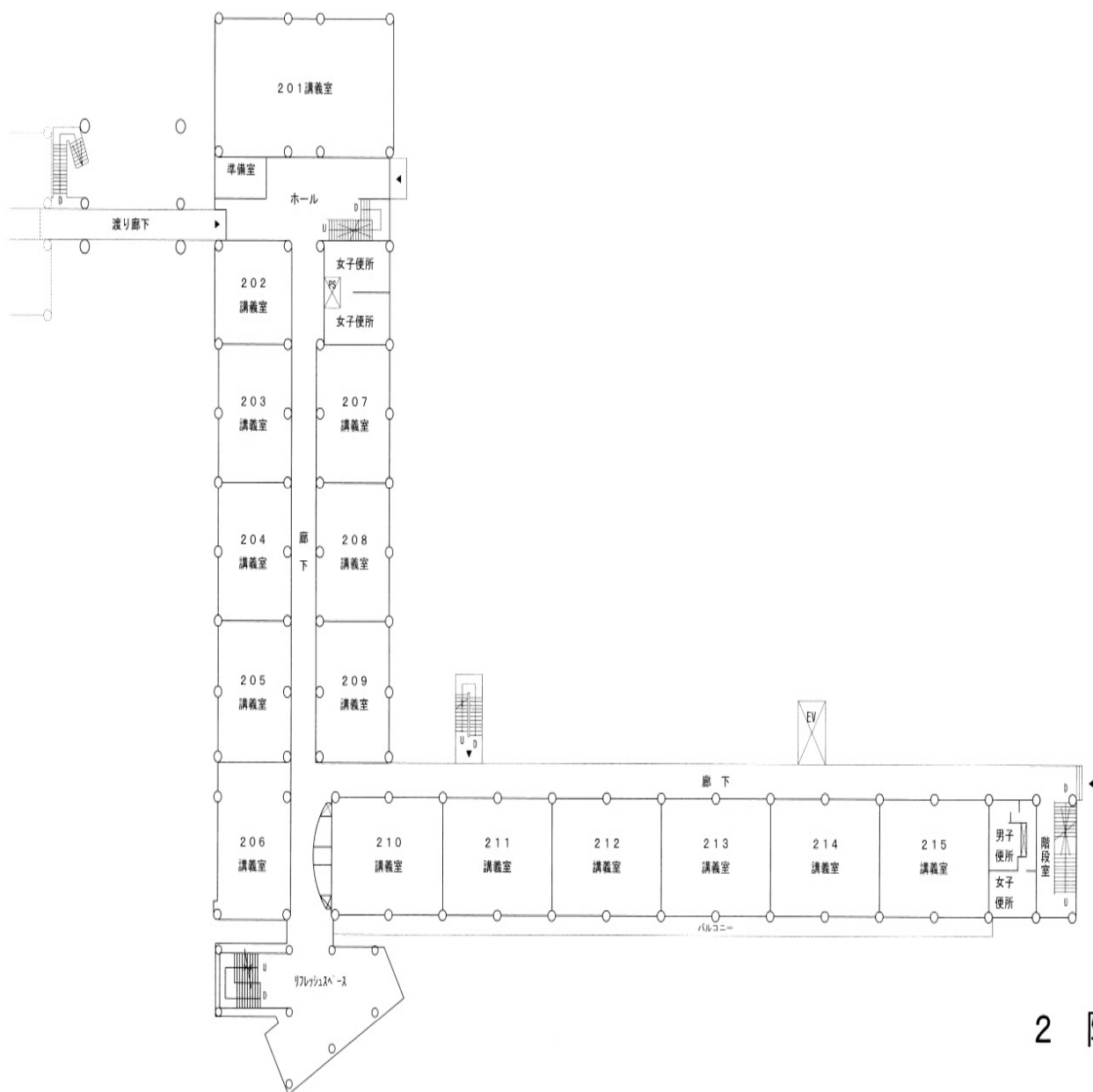
記号	内容
	身障者用トイレ
	スロープ
	自動ドア
EV	エレベータ
	自動体外式除細動器(AED)
	階段昇降機
	手すり
P	身障者用駐車場(図示)
	公衆電話(図示)
	ポスト(図示)
ATM	ATM(図示)
B	バイク専用駐車場(図示)

番号	施設名	諸設備	番号	施設名	諸設備	番号	施設名	諸設備	番号	施設名	諸設備
(1)	第一共通棟		(15)	音楽棟		(22)	本部棟		(29)	体育館附属棟	
(2)	第二共通棟		(16)	美術第一実習棟		(23)	附属図書館		(30)	文化系サークル棟	
(3)	教育総合棟		(17)	美術第二実習棟		(24)	講堂		(31)	体育器具庫	
(4)	情報処理センター棟		(18)	美術第三実習棟		(25)	第一福利施設		★	屋外トイレ(2ヶ所)	
(5)	人文・情報棟		(19)	保健体育棟		(26)	第二福利施設				
(6)	第一人文棟		(20)	養護教育二号楼		(27)	保健環境センター棟				
(7)	第二人文棟		(21)	養護教育一号楼		(28)	心理教育相談棟				



会場案内図

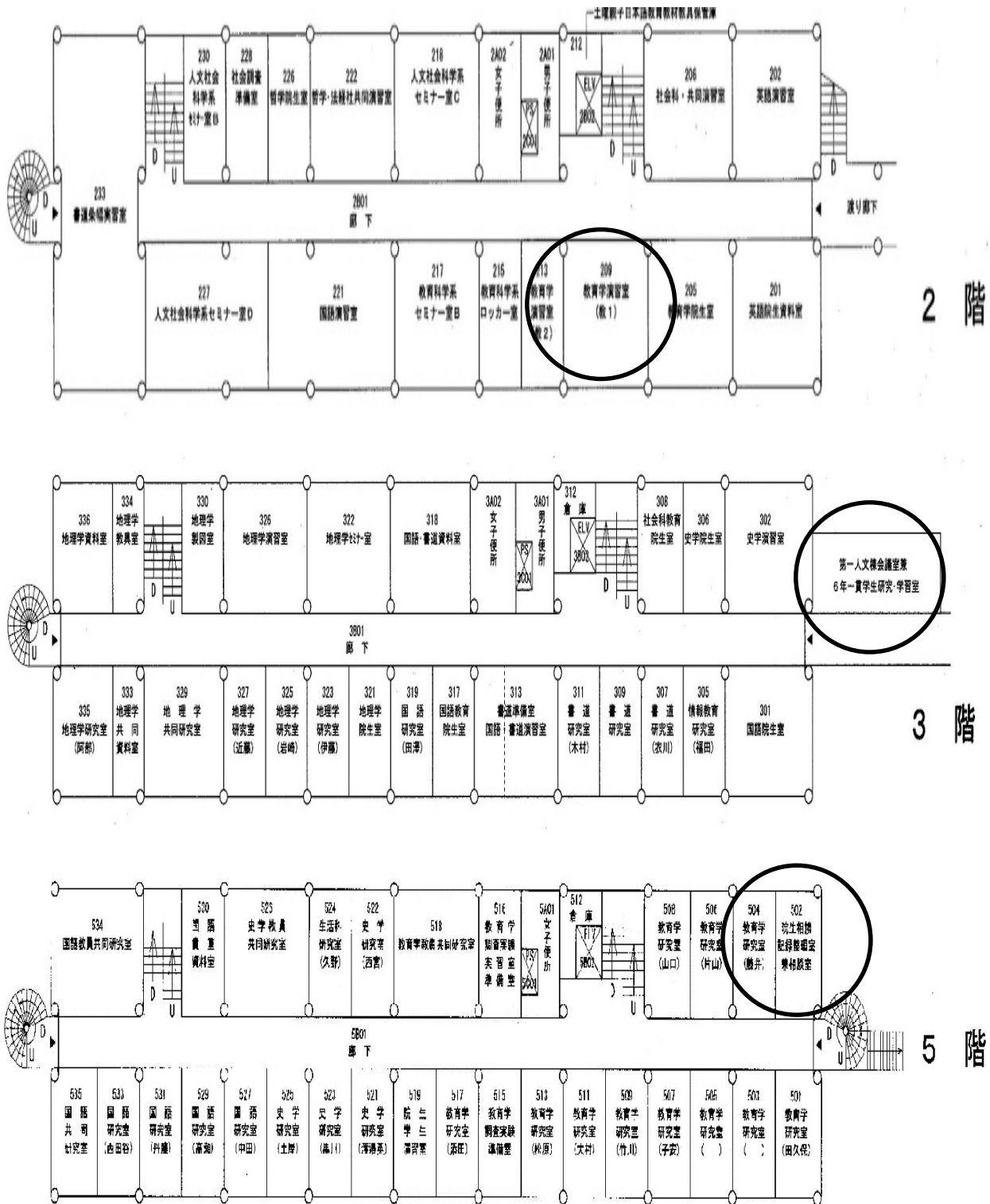
第一共通棟



2 階

- 210 教室：研究発表 I -1 / II -1 / III -1 ・ テーマセッション I ・ ラウンドテーブル I
- 211 教室：研究発表 I -2 / II -2 / III -2 ・ テーマセッション II ・ ラウンドテーブル II
- 212 教室：研究発表 I -3 / II -3 / III -3 ・ ラウンドテーブル III
- 213 教室：研究発表 I -4 / II -4 / III -4 ・ ラウンドテーブル IV
- 214 教室：研究発表 I -5 / II -5 / III -5 ・ ラウンドテーブル V
- 201 教室：特設ラウンドテーブル ・ 公開シンポジウム ・ 総会
- 208 教室：新・各種委員会
- 209 教室：新・各種委員会
- 205 教室：会員控室
- 204 教室：クローク

第一人文棟



- 2階 209 教室 (教育学演習室) : 現・将来構想委員会
- 3階 第一人文棟会議室 : 現/新・理事会
- 5階 502 教室 (院生相談室) : 会計監査

研究発表 I

2015年6月27日(土) 9時30分～12時
第一共通棟2階 210教室

I-1 【教育参加】

司会 東野 充成 (九州工業大学)

9時30分～9時55分

里山プレイパークにおける子どもと若者ボランティアの関係性

立石 麻衣子 (奈良教育大学・NPO 法人北摂こども文化協会)

9時55分～10時45分

現代学校教育システムの分業化の論理の克服は可能か

—私立めばえ幼稚園における保護者の保育参加の意義—

○及川 留美 (東京未来大学)

○木村 学 (文京学院大学)

10時45分～11時10分

体験構造の推移に関する考察

—1982年調査と比較して—

○深谷 野亜 (松蔭大学)

深谷 昌志 (東京成徳大学(名))

11時10分～12時 総括討論

研究発表 I

2015年6月27日(土) 9時30分～12時
第一共通棟2階 211教室

I-2 【子育て・子育て支援】

司会 中田 周作 (中国学園大学)

9時30分～9時55分

地域教育／地域づくりの再検討のために

－地方創生，子ども・子育て新制度との比較対照を通して－

春日清孝 (明治学院大学 (非))

9時55分～10時20分

母親から見た父親の子育て

－母親の語りの分析を通して－

片桐 真弓 (尚綱大学)

10時20分～10時45分

M 幼稚園における保護者の園活動への主体的参加過程

－在園児保護者への「子育て支援」を考える－

田甫 綾野 (山梨大学)

10時45分～11時35分

子ども子育て支援新制度の可能性と課題<1>

－認定こども園移行準備作業で顕在化した問題を手掛かりに－

○望月 重信 (明治学院大学 (名))

○馬居 政幸 (静岡大学 (名))

○西本 裕輝 (琉球大学)

11時35分～12時 総括討論

研究発表 I

2015年6月27日(土) 9時30分～12時
第一共通棟2階 212教室

I-3 【保育】

司会 青井 倫子 (愛媛大学)

9時30分～9時55分

少子地域の保育所における「保育文化」の固有性
ー北海道におけるへき地保育所へのアンケートからー
長津 詩織 (釧路短期大学)

9時55分～10時20分

保育施設における「お集まり」場面に関する研究
保木井 啓史 (広島大学大学院)

10時20分～10時45分

保育施設の時間的環境における「境の場所」
境 愛一郎 (広島大学大学院)

10時45分～11時10分

幼児の道具使用による自然環境へのかかわりの広がりと深まり
ー森のようちえん「こどもの森幼稚園(長野市)」の保育実践よりー
○高橋 健介 (東洋大学)
請川 滋大 (日本女子大学)

11時10分～12時 総括討論

研究発表 I

2015年6月27日(土) 9時30分～12時
第一共通棟2階 213教室

I-4 【教育と支援】

司会 坪井 瞳 (浦和大学)

9時30分～9時55分

フリースクールにおける「学習」とその支援
－「居場所」のローカルリテラシー－
藤根 雅之 (大阪大学大学院)

9時55分～10時20分

「治療共同体運動」の展開と若者の包摂
古賀 正義 (中央大学)

10時20分～10時45分

子どもの貧困対策としての「無料塾」に関する研究
－沖縄県内の取組を中心に－
嘉納 英明 (名桜大学)

10時45分～12時 総括討論

研究発表 I

2015年6月27日(土) 9時30分～12時
第一共通棟2階 214教室

I-5 【進学行動・学習】

司会 寺崎 里水 (法政大学)

9時30分～9時55分

高校生の学習観

ー大学進学率でみた中堅高校の生徒ー

南本 長穂 (関西学院大学)

9時55分～10時20分

高校中退経験者による否定的ラベル「修正」の試みに関する一考察

ーサポート校生徒の大学進学行動に着目してー

内田 康弘 (名古屋大学大学院・日本学術振興会)

10時20分～10時45分

専門学校に入学する高校既卒生の進路再選択プロセス

鷲巢 禎江 (早稲田大学大学院)

10時45分～11時10分

へき地の高校における進路指導の様相

ー大学進学行動に関する生徒と教師の語りをもとにー

上地 香杜 (名古屋大学大学院)

11時10分～12時 総括討論

研究発表Ⅱ

2015年6月27日(土) 13時40分～15時20分
第一共通棟2階 210教室

Ⅱ-1 【子どもと性】

司会 藤田 由美子 (北海道教育大学)

13時40分～14時5分

10代の出産に関する事例

—中学生・高校生を中心に—

梅原 佐知子 (東京都立第三商業高等学校)

14時5分～14時30分

幼児期における性同一性形成過程の境界域の実態

梅本 めぐみ (富山短期大学)

14時30分～14時55分

幼児の性自認に関する社会学・心理学的実証研究に対する批判的検討

大滝 世津子 (鎌倉女子大学)

14時55分～15時20分 総括討論

研究発表Ⅱ

2015年6月27日(土) 13時40分～15時20分
第一共通棟2階 211教室

Ⅱ-2 【家庭教育・小学校教育】

司会 長谷川 祐介 (大分大学)

13時40分～14時5分

きょうだい関係が「書く力」に与える影響
前馬 優策 (大阪大学)

14時5分～14時30分

ゆとり教育世代の大学生
ー小学校「総合的な学習の時間」の意味ー
山本 陽子 (敬愛大学)

14時30分～14時55分

子ども期の家族との経験が高校生活・大学生活に与える影響
ー大学生アンケート調査分析からー
○浜島 幸司 (同志社大学)
武内 清 (敬愛大学)
谷田川 ルミ (芝浦工業大学)

14時55分～15時20分 総括討論

研究発表Ⅱ

2015年6月27日(土) 13時40分～15時20分
第一共通棟2階 212教室

Ⅱ-3 【教育と安全】

司会 加野 芳正 (香川大学)

13時40分～14時5分

「子どもの犯罪被害防止」推進のプロモーターとしての「専門家」

ー〈学校安全〉に多様な主体を動員する語りの特性ー

桜井 淳平 (筑波大学大学院)

14時5分～14時30分

「見守る」からみる保育者の専門性

ー「ヨモギ団子事件」における実践知の解読ー

○上田 敏丈 (名古屋市立大学)

中坪 史典 (広島大学)

吉田 貴子 (花園大学)

14時30分～14時55分

保育現場での安全・危険管理における保育者の専門性を考える

○田村 佳世 (愛知教育大学大学院)

鈴木 裕子 (愛知教育大学)

14時55分～15時20分 総括討論

研究発表Ⅱ

2015年6月27日(土) 13時40分～15時20分
第一共通棟2階 213教室

Ⅱ-4 【教師と子ども】

司会 吉田 美穂 (中央大学)

13時40分～14時5分

メディアを用いた協働学習のデザイン
ーエスノメソドロジー研究の視点からー
五十嵐 素子 (北海学園大学)

14時5分～14時30分

小中一貫校における児童・生徒理解に関する一考察
遠藤 宏美 (明治学院大学)

14時30分～14時55分

教師の教材観と子ども観
佐野 秀行 (大阪人間科学大学)

14時55分～15時20分 総括討論

研究発表Ⅱ

2015年6月27日(土) 13時40分～15時20分
第一共通棟2階 214教室

Ⅱ-5 【歴史】

司会 山田 浩之 (広島大学)

13時40分～14時5分

明治・大正期発刊雑誌『少女』における読者の様相
－時事新報社と女子文壇社との比較を通して－
田中 卓也 (共栄大学)

14時5分～14時30分

兵庫県の紡績工場内における保育
－明治後期から大正期にかけて－
和田 真由美 (近大姫路大学)

14時30分～14時55分

日本の近代化における倉橋惣三の家庭教育論
－「婦女新聞」の検討を中心に－
小尾 麻希子 (武庫川女子大学大学院)

14時55分～15時20分 総括討論

テーマセッション I

2015年6月27日(土)

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 210教室

【テーマ】

子ども社会研究の学際性の可能性に迫る
－多様性と専門性の融合可能性－

【話題提供者】

原田 彰 (広島大学名誉教授 本学会元会長)

川勝 泰介 (京都女子大学教授 本学会理事)

【ファシリテーター】

田中 理絵 (山口大学・研究交流委員会委員)

高橋 靖幸 (立正大学・研究交流委員会委員)

【企画趣旨】

昨年(2014年)の第21回大会では、日本子ども社会学会創立20年を迎え、学会草創期を知らない若手・中堅の会員も増えた状況を踏まえ、あらためて既存の学問枠組みに収まらない子ども研究の学際学会を立ち上げたときの「熱気」を振り返りつつ、これからの子ども(社会)研究の科学的な基盤のあり方そのものから、本学会の具体的な課題や方向性について議論を行った。その結果、本学会の魅力であり武器となるものとして、会員の高い専門性と多様性があげられた。

それを踏まえ、本セッションでは、子ども社会研究を本学会で発展させていく方向性の1つとしての「学際性の可能性」について議論を進めたい。まず、日本子ども社会学会の理事として学会の運営や研究をリードしてきた2名の元理事に、それぞれのこれまでの子どもに関わる研究歴(対象・関心・方法・理論・子ども観)や本学会での活動歴などを踏まえて本学会で学際性を生かす方策について話題提供をしていただく。それに対して、中堅・若手会員からの質疑・対話を通して、具体的な研究可能性について探求する。

テーマセッションⅡ

2015年6月27日(土)

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 211教室

【テーマ】

男子問題の時代か？

ー子どもとジェンダーをめぐる状況と課題ー

【話題提供者】

池谷 壽夫 (了徳寺大学)：性教育の視点から

山口 季音 (京都ノートルダム女子大学非常勤講師)：暴力の視点から

知念 渉 (大阪大学)：学力格差の視点から

【指定討論者】

内海崎 貴子 (川村学園女子大学)：ジェンダー平等教育の視点から

【ファシリテーター】

多賀 太 (関西大学・研究交流委員会委員)

細辻 恵子 (甲南女子大学・研究交流委員会委員)

【企画趣旨】

従来の「子どもとジェンダー」研究や「ジェンダーと教育」研究は、どちらかといえ
ば、女子のために実質的な発達・教育機会の平等を保障することを念頭に行われてきた
が、近年では、いまや問題を抱えているのはむしろ男子の方であるとの言説が広まりつ
つある。そこでは、男子の学業不振や粗暴な振る舞いといった問題の責任を男子自身に
求めようとする見方もあれば、それらの問題は男子が不利な立場に置かれていることの
表れであるとして男子を援助の対象としてとらえようとする見方もある。

しかし、女子に対する男子の不振・不利といった見方がどの程度事実として妥当なの
かについては、十分に検討されているとはいえない。また、仮に男子が問題を抱えて
いるにせよ、そうした問題にいかに対処すべきかについては、学問分野やフェミニズム
との距離の取り方などによって異なる見解が示されることも少なくない。

こうした状況をふまえ、本セッションでは、近年注目されつつある男子の問題につい
て、「性教育」「暴力」「学力」の視点から話題提供をしていただく。同時に、男子に注
目が集まることで不可視化されがちな女子の問題についても、指定討論の形で提起して
いただく。子どもとジェンダーをめぐる諸問題の現状を確認し、今後の学術的・実践的
課題について、会員とともに考えたい。

特設ラウンドテーブル

2015年6月27日(土)

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 201教室

【テーマ】

教員と子どもの関係ー教員の子ども観と指導のありかたー

【コーディネーター・司会】

黄 順姫 (筑波大学)

武内 清 (敬愛大学)

【話題提供者】

日本の小中学校の教員の子ども観

浜島 幸司 (同志社大学)

日本の教師はどのような事柄に留意して指導を行っているのか

加藤 幸次 (上智大学(名))

韓国における子どもの安全と教員の人権

孔 秉鎬 (韓国 烏山大学)

金 珠泳 (ソウル市中区育児総合支援センター)

大学教員・学生を巡るリスク社会の緩和ー同窓会、地域社会との関連でー

黄 順姫 (筑波大学)

【内容】

本ラウンドテーブルでは、教師と子ども(大学生も含む)との関係を、さまざまな視点から考察し議論します。

浜島氏、加藤氏の報告は、2014年秋に実施された全国の小中学校の教員を対象にして行われた「教育に関するアンケート」(中央教育研究所)からの報告で、教師の子ども観と指導観の考察です。孔秉鎬氏・金珠泳氏の報告は、韓国で社会問題になっている幼稚園に監視テレビを導入し教師の指導を収録することを巡る論争が中心です。ここには、日本とは違った韓国の子ども観や指導観が伺えます。黄氏の報告は、大学教員及び学生の現代的・将来的不安と地域の教育力：同窓生、社会人メンターの大学貢献の事例を通しての報告です。

幼小中(高)大という子どもの発達段階と、日本と外国との子ども観や指導観の違いから、教師と子どもの関係や指導のあり方がどのように違っているかを考察し、今後の教育指導のあり方を考えていきたいと思えます。

孔秉鎬教授は、韓国日本教育学会の元会長(現研究担当理事)であり、氏の本学会で報告は、今後の両学会間の国際交流の礎になるもので、特設ラウンドテーブルとして開催しました。

研究発表Ⅲ

2015年6月28日（日） 9時30分～12時
第一共通棟2階 210教室

Ⅲ-1 【子ども理解】

司会 田中 亨胤（近大姫路大学）

9時30分～9時55分

「解釈的アプローチ」による子ども研究の「子どもの描き方」

池田 隆英 （岡山県立大学）

9時55分～10時20分

子どもにおける死の概念

宮崎 康子 （国際日本文化研究センター）

10時20分～10時45分

保育実践研究における従来の記録論の問題点の批判的検討

—集团的視点の欠如と心的表象理解への偏向—

小川 博久（東京学芸大学（名））

10時45分～12時 総括討論

研究発表Ⅲ

2015年6月28日（日） 9時30分～12時
第一共通棟2階 211教室

Ⅲ-2 【保護者の教育観】

司会 久保田 真功（富山大学）

9時30分～9時55分

なぜ「所得差による教育の不平等」を容認するのか

—学校外教育への投資行動が保護者の意識に与える影響の分析から—

前田 麦穂 （東京大学大学院）

9時55分～10時20分

青少年における学校外教育と教育格差の関連性

—日韓中高生をもつ保護者を対象とした質問紙調査をもとに—

小澤 昌之 （青山大学大学院）

10時20分～10時45分

幼児のスマートフォンゲーム遊びの実態調査

湯地 宏樹 （鳴門教育大学）

10時45分～12時 総括討論

研究発表Ⅲ

2015年6月28日（日） 9時30分～12時
第一共通棟2階 212教室

Ⅲ-3 【保育者】

司会 岩田 遵子（東京都市大学）

9時30分～9時55分

幼稚園の園内研修による保育者の意識の変化
山本 聡子 （名古屋柳城短期大学）

9時55分～10時20分

KJ法が園内研修にもたらす功罪
ー保育者が感じる語り合いの困難さとの関係からー
○濱名 潔 （広島大学大学院）
保木井 啓史 （広島大学大学院）
境 愛一郎 （広島大学大学院）
中坪 史典 （広島大学）

10時20分～10時45分

保育者役割の取得過程
中井 雅子 （十文字学園女子大学）

10時45分～11時10分

保育者の自己形成と実践コミュニティに関する研究
香曾我部 琢 （宮城教育大学）

11時10分～11時35分

保育者の意欲向上や苦手意識の克服に影響を及ぼす要因について
川村 高弘 （神戸女子短期大学）

11時35分～12時 総括討論

研究発表Ⅲ

2015年6月28日（日） 9時30分～12時
第一共通棟2階 213教室

Ⅲ-4 【障害のある子ども】

司会 堤 英俊（都留文科大学）

9時30分～9時55分

障害児の放課後等デイサービス事業所における保護者の就労支援の位置づけ
丸山 啓史 （京都教育大学）

9時55分～10時20分

障害のある子どもの放課後生活の変容と課題
三好 正彦 （大阪女子短期大学）

10時20分～10時45分

障がいのある子どもとの関わりが園児に与える影響に関する文献的検討
○二宮 祐子 （埼玉東萌短期大学）
小野寺 知子 （小田原短期大学（非））

10時45分～12時 総括討論

研究発表Ⅲ

2015年6月28日(日) 9時30分～12時
第一共通棟2階 214教室

Ⅲ-5 【青少年の意識】

司会 池田 曜子 (流通科学大学)

9時30分～9時55分

父親は中高生の息子・娘に好かれているのか？

臼田 明子 (昭和女子大学)

9時55分～10時45分

子どもの幸福感と未来像に関する研究

－1979年調査と対比の中で－

○深谷 昌志 (東京成徳大学 (名))

○深谷 和子 (東京学芸大学 (名))

10時45分～11時10分

青少年の国家に対する帰属意識の分析

－内閣府調査をもとに－

富江 英俊 (関西学院大学)

11時10分～12時 総括討論

公開シンポジウム

2015年6月28日（日）

13時20分～15時20分
第一共通棟2階 201教室

【テーマ】

スマホ社会を生きる子どもたち

【報告者】

石井 久雄 （明治学院大学）

悪玉としてのスマホ／被害者としての子ども」と

「反映物としてのスマホ／当事者としての子ども

木村 治生 （ベネッセ教育総合研究所）

スマホが子どもたちに受け入れられる背景を問う

宮之原 弘 （金城学院中学校）

高校生によるケータイ・スマホハンドブック制作の意義と効果

【指定討論者】

小針 誠 （同志社女子大学）

【司会】

田川 隆博 （名古屋文理大学）

【趣旨】

「スマートフォン」（以下、スマホ）が一般的に認知されようになったのは2000年代後半に入ってからである。2005年までは使用する層が限られていたが、iPhoneの登場により、その認知度は一気に広まった。われわれがスマホと出会ってから、まだほんの10年足らずである。ところが、そのわずかの間にスマホは急激に普及し、いまや6割超（62.6%）の世帯がスマホを保有している（総務省『平成25年通信利用動向調査』）。スマホは日常生活に欠かせないツールとなっているといっても過言ではない。

こうした急速な普及は、いくつかの「問題」を産み出した。なかでも社会的関心を集めているのが、子どものスマホ利用である。最新の調査によれば、中学3年生の約半数が、高校1年生および2年生の8割以上が自分専用のスマホを所持している（ベネッセ教育総合研究所『中高生のICT利用実態調査2014』）。その普及に比例して、情報端末がつねに身近にあることに伴う問題（「ネット依存」「ネットいじめ」「ネット犯罪」など）がメディアを賑わすようになった。教育現場や家庭でも、スマホとの「正しい」付き合い方に対する関心が高まっている。

実際、スマホが子どもに深刻な被害をもたらしているのであれば、真摯に対応する必要がある。しかし、少し穿った見方をすれば、大人側がスマホを危険視するあまり、

問題を作り出している側面はないか。一部の問題に大人が過敏に反応している可能性がないとは言い切れない。また、大人がスマホを危険視して、子どもから取り上げれば済むといった単純な問題でもない。子ども社会への急速な普及には理由があるし、社会変化に伴って情報端末を使いこなす力の重要性も強調されるようになっている。果たして、子ども社会にとってスマホは「問題」なのか。そして、本当の「問題」は何であるのか。

以上のような関心から、今回のシンポジウムでは、子ども社会とスマホについて議論を行ないたい。第1に、スマホと子どもとの関係は、どのような捉え方や見方ができるのかについて。第2に、友人関係の中や趣味のつながりの中などでスマホはどのように利用されているのかについて。第3に、中高校生自身は、スマホ問題にどう向き合い、どのようなことに気をつけていこうとしているのかについて。それをもとに、子ども社会がスマホをどのように受け入れ、そこにどのような功罪が生じているのか。それに対して、われわれ大人はどのように対処すればよいのかを検討したい。

ラウンドテーブル I

2015 年 6 月 28 日 (日)

15 時 30 分～17 時 30 分
第一共通棟 2 階 210 教室

【テーマ】

人間教育－心の教育－性教育

【コーディネーター】

山田 富秋 (松山大学)

【司会者】

臼杵 百合子 (日本保健医療大学)

【提案者】

宮崎 悦子 (内科医)
高橋 鈴子 (看護師)
七浦 美知子 (保育園理事)
菅野 由美子 (「はいはい子育てダイヤル」元相談員)
稲尾 陽子 (元小学校教諭)
高木 茂子 (雑誌編集者)

【内容】

人間誕生の根幹，性の問題はりっしん偏に生まれるの字のごとく，心が生まれ子どもが生きる大事な問題です．この事柄については昭和 22 年，文部社会教育局において「純潔教育の実施について」という通達が出され，これがわが国で性教育を公式な立場から取り上げた最初のものでした．その後，学校指導要領での扱いも徐々に形を変え，現在性教育として教育課程において小・中・高と行われているものの，時代の変化，価値観の多様化に教育現場が対応しているとはいえない現状があります．そこで現場に携わってきた方々と教育現場で何が問題か，何が出来るのか，討議する場を設けたいと考えます．

ラウンドテーブルⅡ

2015年6月28日（日）

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 211教室

【テーマ】

保育者養成校における子ども文化の意義と課題

【コーディネーター】

田中 卓也 （共栄大学）

【司会】

田中 卓也 （共栄大学）

【提案者・討論者】

小島 千恵子 （名古屋短期大学）

橋爪 けい子 （浜松学院大学短期大学部：非会員）

谷原 舞 （大阪信愛女学院短期大学：非会員）

田中 卓也 （共栄大学）

【内容】

本シンポジウムでは、保育者養成校で行われている子ども文化の講義、演習においてどのような形で取り入れられているのかの実態を見ることで、その現状と課題について考えるものである。子ども文化の講義・演習の視点、保育実習・幼稚園実習担当者からの視点、絵本やパネルシアターなどの指導者からの視点などを取り入れながら、子ども文化のあるべき姿や意義、課題を見出したい。積極的なギャラリーからの意見も受け入れ、実りあるラウンドテーブルにしたいと考えている。

ラウンドテーブルⅢ

2015年6月28日（日）

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 212教室

【テーマ】

紙芝居の可能性を探る－高齢者介護と紙芝居－

【コーディネーター】

鬢櫛 久美子 （名古屋柳城短期大学）

【司会者】

川北 典子 （平安女学院大学）

【提案者・討論者】

提案者：遠山 昭雄 （介護紙芝居研究者）

討論者：堀田 穰 （京都学園大学）

【内容】

かつて街頭紙芝居に目を輝かせ、魅了された子どもたちが高齢者となった今日、紙芝居活用は高齢者介護の場に広がりを見せ、「介護紙芝居」の出版にもつながっている。高齢者介護における紙芝居活用の模索と実践を通して、そこから見えてくる紙芝居の可能性を探りたい。

ラウンドテーブルⅣ

2015年6月28日（日）

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 213教室

【テーマ】

うたと語りで子どもとつながろう in 中京

【コーディネーター】

鵜野 祐介 （立命館大学）

【司会】

鵜野 祐介 （立命館大学）

【話題提供者】

三戸 律子 （恵那教育研究所）

清水 美智子 （子どもとことばの文化研究会）

児玉 珠美 （名古屋女子大学短期大学部）

【内容】

2012年度大会から毎年行なっている、うたと語りによる子育て・親育ちについて考えるラウンドテーブルで、中京地区では初めてとなります。今大会では、岐阜県中津川市を中心に子どもたちや障がい者・高齢者の方に昔語りの活動を行なっておられる三戸律子さん、愛知県刈谷市で子育てにおける絵本や語り的重要性について実践と研究を行なっておられる清水美智子さん、赤ちゃんに話しかける時の、声のトーンをあげ抑揚のあるゆっくりとしたもの言いを指す「マザリーズ」の重要性について研究と実践を行なっておられる児玉珠美さんに、話題提供をしていただきます。

休憩をはさんで後半は、参加者全員で「うたと語りによる子育て・親育ち」を支援していくための方策を中心に、自由な談論の場を設けたいと思います。

子育て支援の活動や図書館サービスの活動にかかわっておられる方、保育や教育の現場でうたや語りの実践をしておられる方、その他「歌い語る声の力」に関心を持つすべての皆様のご参加をお待ちしております。

ラウンドテーブルV

2015年6月28日(日)

15時30分～17時30分
第一共通棟2階 214教室

【テーマ】

保育者養成大学における生活体験型授業の必要性

ー伊豆大島野外体験センターで起きる「意外性」が学生にもたらす体験とはー

【コーディネーター】

岡本 富郎 (大島野外体験センター／元・明星大学)

【司会】

岡本 富郎 (大島野外体験センター／元・明星大学)

【提案者】

結城 孝治 (國學院大學)

木村 学 (文教学院大学)

松永 愛子 (目白大学)

【指定討論者】

小川 博久 (東京学芸大学(名))

【内容】

1. 生活体験学習の必要性について(岡本富郎)

近年の子どもや保育者志望学生の自然体験が減少している事態について指摘し、自然の中での生活体験学習の必要性を述べる。また、大島野外体験センターでの「自然の中での生活体験」とは、世界と自己との相互作用の中を生きている実感を持つことができる体験のことをいい、そうでないタイプの自然体験活動との違いを明確にする。また、伊豆大島の紹介、野外体験センターのある岡田地域の特徴、協力いただいている島の人々の紹介、組織成立の経緯などについて紹介する。

2. 野外体験センターでの活動に参加した学生へのアンケート結果報告(結城孝治)

野外体験センターに参加した5大学のそれぞれのプログラムの特徴について紹介する。その上で、学生へのアンケート結果を報告する。特に、「学生の子どもの時代から今までの自然体験について」と「学生にとって印象的であった体験について」の分析に焦点をあてる。

3. 大学によって特徴ある「プログラムから派生したハプニング」についての報告と考察(木村学・松永愛子)

木村報告からも、松永報告からも、大島野外体験センターでは、学生は、あらかじめ決められていた活動内容以外に遭遇することとなった出来事が報告される。例えば、島

の漁師が夕食に魚の刺身を差し入れてくれたり、宿の近隣の住民の方が学生に釣りを教えてくれたりといった体験や、海水浴の日に嵐になったり、天候により船の到着港が変更されたり、早起きして朝陽をみようとしても曇っていたりといった体験である。これらは、自然の影響を受けざるをえない島の環境に依る体験であり、学生は島の環境に臨機応変に対応できる心と体が求められる。

このような体験は、大学キャンパスの授業において学生に期待されている学びの態度とは大きく異なっている。通常の授業では、あらかじめシラバスが提示され、評価の視点と成績のポイント配分が提示され、学びの目的や道筋が示され、それにのって学ぶ姿勢が期待されている。滞りなく学ぶことができれば、単位を取得できる。その過程において、予測不可能な事態は教員にも学生にも許容し難い。

つまり、通常の授業においては、学生の努力や学びは単位やポイントに交換されていくといえる。しかし、自然体験は必ずしも何かと交換したり予測したりしきれるものではない。予測できないうちに（機会が）贈与されたり、収奪されたりすることがありうる。こういう事態に直面して初めて、精神的強さを得るために、哲学などの抽象的思考が必要とされるのではないか、その時には、専門的知だけでなく一般教養的知が必要になるのではないか。このような、通常授業と野外体験センターでの活動の比較の観点から、問題提起がなされる。

4. 豊かな経験を、どのように質的データ化し、研究成果として示すことができるか（松永愛子）

今後の課題として、学生の体験をどのように記録し分析するかについて検討する。まず、エスノグラフィーの手法を説明する。その上で、第一に教員自身の参加動機や学生との関わりの中での変化などに関する体験記録、学生による体験の記録の必要性について述べる。第二に、学生にとって、体験を省察する方法を各大学で共通化する必要性について検討する。たとえば、帰京後インタビュー、大島野外体験センターでの活動の夜に毎日、日誌やブログ等を書く時間を作る、毎晩ミーティングの中で印象に残った絵や写真を見せながらトークをする、等いくつかの方法が提示される。また、ビデオ記録の活用方法として、次年度の学生に体験を受け継ぐ役割等についても検討される。

5. 指定討論者からの意見、フロアからの意見をもらい討論する。

本研究は「2014年度日本子ども社会学会若手研究者学生チーム研究助成」を受けている。

日本子ども社会学会 第22回大会 実行委員会

実行委員長	片山 悠樹	愛知教育大学
実行委員	鈴木 裕子	愛知教育大学
	鬢櫛 久美子	名古屋柳城短期大学
	野崎 真琴	名古屋柳城短期大学
	高瀬 慎二	名古屋柳城短期大学
	横井 志保	名古屋学院大学
	小島 千恵子	名古屋短期大学

日本子ども社会学会 第22回大会 プログラム

発行	2015年5月
発行者	日本子ども社会学会第22回大会実行委員会 448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 学校教育講座 片山悠樹研究室気付
印刷	プリ・テック株式会社